

## きくまつり ありがとうございました。 国や文化が違ってても、人として“同じ”と感ずること

副校長 細井 宏一

先日は、きくまつりに多くの保護者の皆様にご参観いただきまして、誠にありがとうございました。晴天に恵まれて行くことができました。薪がやや湿っていて、火が付くのにかなり苦戦しました。そのため、菊の観賞の時間が短くなり、下校もやや遅くなってしまい、申し訳ございませんでした。薪については、今年の反省点で、来年度の課題とします。最後の紙風船あげは、雲一つ無い美しい青空に、色とりどりの紙風船が、風が無かったのでとてもゆっくりと上がっていきました。本当にきれいでした。もう千葉県の方から、風船が届いたお便りが来ています。

毎年、第1部開校を祝う会では、卒業生の方をお招きしてお話を伺っています。今年は、64回生の會田有璃(あいだゆり)さんにご講演をいただきました。會田さんは、大学生のときに、留学し、アメリカテキサス州で行われた有人火星ミッションコンテストという宇宙に関する大会で、外国の方と一緒にチームをつくり、見事に優勝したことがあるそうです。国際的に活躍し、大学生 of the year 2014 のファイナリストにもなられました。講演のテーマは「世界を感謝でつなげたい」でした。

講演で、會田さんは、今に役立っている大泉小学校のときの2つの出来事を話してくださいました。一つは韓国学校との交流学習です。「キムチは嫌い」と思っていたそうなのですが、本場のキムチを食べてみたらとてもおいしくて、考えが変わったそうです。小学校低学年の内に、外国の子と仲良くなり友達になる経験をしたことは、留学の時の自信になって、とてもよかったとお話してくださいました。

もう一つは、中学年頃、ある先生が「人間は共通の敵がいると仲良くなれる。だから、世界中の人が仲良くなるには、宇宙人という共通の敵が現れないとなれないかもしれない。」と、ボソッと話したことが、なぜかとても記憶に残ったというエピソードです。それから頭の隅に、「本当にそうなのだろうか」と思い続けていた會田さんは、大学生の時、大使館廻りをして、世界の国と日本との関わりエピソードをたくさん聞いて回ったそうです。すると、日本は多くの国から助けをもらったり、助けたりしている話を聞いたそうです。また、留学時には、外国の方と一緒に学ぶ中で、楽しいことは一緒に楽しいし、何かしてもらおうと嬉しいし、助けてあげると感謝してもらえると、当たり前なんだけど実感として気がついたそうです。そこで、會田さんは、「世界が仲良くなるには、共通の“敵”をもつのでは無く、共通の“目的”を持つことが大事だ」と考えるようになった、だから、優しい気持ちで支え合って感謝しあう、そのことで世界を繋いでいきたい。という話でした。とても心に響くお話でした。

私は、この話を聞いて、以前東京学芸大学の副学長でいらした藤井先生の話思い出しました。それは、「国際教育というと、とかく、違いをクローズアップして、『違うけど受け止めよう』とか『違いを理解しよう』といった『違いをどうするか』に目が向きがちである。それも大切だが、『国や文化・考え方は違うけど、一人の人(ヒト)としては同じなんだ』ということ、同じということにも気がつかせることが、もっと重要である」という話です。

今年は、国際学級ゆり組が誕生して50周年。今年の学校経営の重点の一つに、世界に視野を広げる機会をつくるというのを挙げています。この間まではラグビーのワールドカップで盛り上がりました。そして来年は東京オリンピック・パラリンピックが行われます。本校で学んだ子どもたちが、グローバル社会にはばたいて、世界から信頼され活躍できる人になってほしいと、夢を描いた一日になりました。

